

昨年11月下旬に沖縄に行ってきた。20年前に農場に来た高校生アルバイトが沖縄で就職して、以前から「おいでコール」があった。当初は武漢ウイルスも収まり海外も目指したが、出入国の煩雑さもあり、未だ見ぬ南国日本に的を絞ったのだ。従業員の慰労を兼ねて、とりあえず平和な日本の原点を認識する目的もあった。

2021年11月30日現在、不発弾処理3万8778件、未だ戦いは続いている。沖縄といえば、やはり1941年4月の米軍との激戦の地でもある。

これまで沖縄についていろいろな話を聞いた。例えば、その激戦時に超老人だったり生まれればかりで親がいない子どもだったり、関係書類がないために年齢がいい加減な場合があるそうだ。戦争が終わり、戸籍等を復活するために住民に聞き取り調査を行なった時に「何年生まれですか」「今いくつですか」の問いに答えられない状況が多々あったのだろう。

この戦いでは多くの兵士が亡くなった。日本兵9万4136名、米軍兵1万2520名、民間人9万4000名。沖縄出身の次に犠牲者が多かったのは北海道出身

で、1万人を超える。そう言えばサイパンの飛行場にも北海道の紋別出身者の慰霊塔があった。民間人虐殺、捕虜の銃殺、ひめゆりの塔、何とかクリフ……どんな戦いがあったのか、ウクライナの現状と比較してしまうこと自体が恐ろしい。

その内容を知れば知るほど、出発前から腹の具合が良くなかった。そのピークは沖縄・那覇滞在中の4日間だった。2人の従業員は北海道から持参した釣り道具を持ち出して一日中海辺にいたり、レンタカーで名所を巡ったりのエンジョイタイムを過ごしたようだが、私は結局ホテルからは食事以外出ないでベッドでネムネム。不思議なこと北海道に帰るとピタット腹の具合は良くなった。やはり精神的なモノだったのだろうか。

でもステーキ食べたな。定番の「88ステーキ」も、知る人ぞ知る「やつぱりステーキ」も食べた。行けなかったが、米軍基地内の「タ

沖縄で平和な日本の原点を認識した話

Vol.169



1953年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

リーも訪れた沖縄・首里城で火災が発生した。すぐ全国から再建に向けた寄付金が集まった。その金額は今年2月末で55億円。同じ年の4月15日にパリ・ノートルダムが火災になった。フランス中、いや全世界から再建に向けて集まった寄付金は同じく1230億円になる。これをどう見るか。首里城は沖縄の歴史で、ノートルダムはカトリックの聖地だからか。世界は首里城の火災を知っていたのか。知らんのだろうな。

寄付金の考え方も違うようだ。国税庁のホームページでは「その年の中に……合計額マイナス2000円が寄付金控除額で、上限は所得税の40%相当になる」とある。フランスは60%? 少しの違いの積み重ねが文化を作るのだろう。貧乏な国の国民には寄付という考え方が存在しない。つまり日本はフランスよりも未だ貧しい国ということだ。寄付は自己満足の究極の表現だ。シャイな日本人には向かない、では豊かになれないぞ。

自衛予算はいくらか?

このコラムは4月24日に書いている。ウクライナ進攻でロシア

の海外資産35兆円が凍結されたらしい。戦争が終わっても、35兆円をロシアにお返ししますね♡:とはならないだろう。世界、とくにアメリカはこのあぶく銭を何に使うのか。もちろんウクライナの復興に使うよね。当然だけどアメリカの企業を使って。典型的なスクラップ&ビルドだ。ちよつと前にイラクのバクダッド空爆でもやった。とりあえずアメリカは参戦しないし、パールハーバーの前日と同じようにアメリカ市民の多くは静観を保つ。そのくらい理解して、ウクライナ攻撃に指をくわえて国土再建の名を使った利益行為を指していたらきたい。

さて、日本の政府専用機、予備機に何人乗って日本に来たか、覚えていますか? その数20名。アメリカは受け入れを100万人想定していると聞く。日本に来るよりアメリカに行ったほうが次の世代でもっと可能性を残せると思うのは私だけだろうか。

ミャンマーで10000人が政府軍に殺されても「そうですか私は何もできません、納税している豊かな日本政府が対応するでしょう」と正直に答える。でも、ウクライナは違う。金髪・ブルーアイ

だから? イングリッシュもそこそこできるから? もし、いまの日本が攻撃されたら極東アジア文化でまともにイングリッシュのできない国民を誰が救ってくれるだろうか。

そうなることやほり自衛しかない。以前にも書いたが●歳の部隊の弾薬は連射すると2分でなくなるといふ。計算してみよう。隊員は4500名、小銃も4500丁(そこまでないと思うが)。64式は使い物にならないが、89式小銃と20式小銃ならアメリカ軍と同じ5・56mmの弾丸(アメリカ軍は今6・8mm弾になる)を毎分速射で600発撃てる。2分間で隊員1人当たり1200発になる。

いざ戦争だととなると、道民500万人の10%に小銃が必要になり、その数50万丁だ。それに弾丸1200発を掛けると……いくらだ? 算数は難しいな。そもそも50万丁では少ない。スイスのように各家庭に小銃1丁となる、ざっくり100万丁にそれぞれ弾丸1200発だ。

金額を見てみよう。20式小銃の価格は28万円(アメリカ軍の3倍)、100万丁をかけると2800億円。5・56mm弾の価

格はおおよそ150円×100万丁×1200発(2分間分)で1800億円。2800億円+1800億円で合計4600億円なり。この金額は道民個人の防衛の最低金額だ。小銃弾はその10倍の1万2000発は必要だ。つまり、2800億円+1兆8000億円はいくらか。

何でも防衛予算をGDPの2%にする話があるらしい。そうなるに5兆円から10兆円の予算規模になる。農水省さん、産地交付金は年間3050億円ですよ? まだ足りませんか。どうします? MMT理論を持って来て、国債を誰に売りますか? それとも、中国に農地を売りますか?

さて、隣町の酪農家と話をした。彼は「戦争になったら最近の若い奴は逃げるだろう」と言った。私は「決してそうはならない。怠惰そうに生きているが、イザとなれば家族を守り祖国を守るために喜んで銃を取るだろう」と強めの口調を使った。その酪農家は「オレは逃げるわ」と言うので、「イングリッシュもできないのにどこに?」と聞いたら「……」となった。

Slava Ukraini!

(ウクライナに栄光を!)